

日本フィルハーモニー交響楽団 こんな活動をしています (2021年度活動報告)

日本フィルハーモニー交響楽団 〈こんな活動をしています〉

2021年度活動報告

【Triptyque ホリデーブック第17号】

編集・発行 (公財)日本フィルハーモニー交響楽団 2022年7月
〒166-0011 東京都杉並区梅里1-6-1 TEL.03-5378-6311 www.japanphil.or.jp
office@japanphil.or.jp

JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団

〒166-0011 東京都杉並区梅里1-6-1 TEL.03-5378-6311

<https://www.japanphil.or.jp>

ABS朝日 「Welcome クラシック」インキネン & ヤマカズが語るミニ番組
毎週水曜日 22:54~23:00 放送中!!

チケットご予約・お問い合わせ

[日本フィル・サービスセンター]

TEL.03-5378-5911 (平日10時~17時/現在:平日11時~17時)
※状況によっては営業時間に変更になる場合がございます。
予めご了承ください。

FAX.03-5378-6161 (24時間)

E-MAIL: order-ticket@japanphil.or.jp

公式Twitter
@Japanphil

公式アカウント



Triptyque
[トリプティーク]

Vol.17

ご挨拶

2021年度は“緊急事態宣言”“まん延防止等重点措置”が繰り返される異常な状況の中、いかに演奏会を作りあげるか、生演奏の素晴らしさをお届けできるか、この一念で頑張った年でした。業界一と言われた感染症対策をとり、演奏家も職員も懸命な努力の日々でした。皆様にはご不便をおかけした事と思いますが、コロナ感染による演奏会中止は皆無であった事でご容赦ください。

この年は多くの外国人アーティストを招聘し、音楽芸術の新しい展開を楽しんでいただく計画でしたが、外国人入国規制等により実現出来なかった事は残念でなりません。その中で、10月にラザレフ氏、11月にインキネン氏の来日が叶い、熱い演奏をお届け出来たことは幸いでした。

年度後半には上り龍の若手指揮者カーチュン・ウォン氏を首席客演指揮者(次期首席指揮者)に、日本を代表する広上淳一氏をフレンド・オブ・JPO(芸術顧問)としてお招きする事を発表、日本フィルの芸術面での一層の飛躍を宣言致しました。

「コミュニケーションの毀損」からの回復は遅々として進みませんでした。人と人との接触、地域間移動の制限が長期に亘った為、日本フィルのもつ特徴である“温かさ”“人に寄り添う”活動が十分に出来なかったのが主な原因です。特に“被災地に音楽を”の活動は300回を前に足踏み。なんとか一部オンラインで地域・子ども達と交流を図ったものの、十分な

結果には到りませんでした。しかし将来に向けての“リアルとオンラインによるベストミックス”という考え方を採り入れる重要性を確信しました。

常にご心配をお掛けしている財政状態に一言触れておきます。コロナ禍2年目の今年度も演奏料・入場料収入が期待していたほどは回復できず、厳しさは変わりませんが、赤字幅は縮小している上に、皆様からの温かいご支援、公的助成金等により、最終収支はトントンとなりました。心より感謝申し上げます。

併せて日頃より日本フィルの活動を支援いただいている篤志家より高額の寄付金を頂き、正味財産は大きく底上げされました。日本フィルは多くの方々の支えで活動できている事、今更ながら有難く、幸せ者だと思えます。

コロナ禍後の新しい社会の姿ははっきりとは見えていませんが、変らないものは音楽の力、生演奏の力です。知れば知るほど探究心をくすぐり奥が深く面白いクラシック音楽。歴史・美術・文学・社会と音楽が響きあうコンサートの楽しみ方、定期演奏会が待ち遠しくなるような楽しみ方をお届けしたいと思っています。併せて社会からのオーケストラに対する様々な要請に応え、芸術性と社会性を兼ね備えたトップ樂團を目指して一層精進してまいります。

公益財団法人
日本フィルハーモニー交響樂團

理事長

平井俊邦



はじめに ～続くコロナ禍のもとでの厳しい1年～

2020年度は日本フィルのみならず芸術実演団体にとって悪夢のような1年でしたが、2021年度も年間を通じてコロナの感染者数は前年度を大きく超える状況となり、前年を超えるコロナとの対峙が必要となりました。楽団員にとって体力を消耗し神経のすり減らされる1年でした。

しかしながら、2021年度の事業については、債務超過覚悟の「楽団存続危機」を体験した前年度に比べれば、中止の公演数も最小限に抑えることができ、コロナ対策を厳格に行いながら、なんとか最後まで完遂することができたのは本当に幸いでした。

とはいうものの、長らくイベント開催に対する厳しい制限が解除されず、多くの来場者を迎えての満足できる演奏会がほとんど開催出来なかったことは大変残念でした。

果てしないコロナとの闘いが続く

改めて2021年度事業の遂行状況を振り返ると、年間を通じて、日々最高のコンディションを保ちながら演奏を行う楽員や、多忙な業務を黙々とこなす職員の健康と体調をコロナから守りながらどのようにコントロールしていくかが大きな課題でした。

コンサートホールや各地域が独自に定めた厳しいコロナ対策への的確な対応、リハーサル・演奏会の前に必ず行うこまめな検査(抗原&PCR)、またそのためのキットを確保するために奔走しました。

ステージや楽屋内は勿論、事務所等での厳格な対策は怠らず、綱渡りのような運営を強いられるなかで、楽員、職員全員の献身的な努力や協力があり、演奏会

3つの毀損からの回復状況

目標としていた3つの毀損の回復状況は、以下のとおりです。

(1)芸術面の毀損～一定の前進は果たした～

第1の「芸術面の毀損」の回復については、2020年度には全く来日が叶わなかった2人の外国人指揮者陣の来日が、緊急事態宣言直前の4月、そして9月末の緊急事態宣言解除後に、関係者の多岐にわたる努力のお陰でようやく実現に漕ぎつきました。

4月東京定期演奏会及び10月にはアレクサンドル・ラザレフが2週間にわたる厳しい隔離期間を経て来日、また11月にはピエタリ・インキネンが3日間の隔離期間を経てようやく来日を果たし、彼らの演奏会を長く待ち望んでいた日本フィル・ファンの熱い期待に応えることが出来ました。

前年度は実現出来なかった外国人指揮者陣による久方ぶりの演奏会の開催は、芸術面からの毀損の回

2021年度の事業を始めるに当たって、前年度に被った大きなコロナのダメージからの再興を目指し、期初に“3つの毀損からの回復”を目標として掲げました。

即ち、第1に「芸術面の毀損」、第2に「コミュニケーションの毀損」、第3に「財政面の毀損」からの回復です。

ところが2021年度のスタートも、4月の“まん延防止等重点措置”に続いて発令された“緊急事態宣言”が実質上9月末まで続き、ようやく解除された10月以降は“経過措置期間”に移行し、結局、イベント開催の各種制限が緩和されたのは11月以降になりました。

ようやく通常に戻った矢先の2022年年明けには、より感染力の強いオミクロン株の拡大が始まり、再び東京など各地で“まん延防止等重点措置”が発令され、この厳しい状態が年度末近い3月21日まで続きました。

の円滑な実施を続けることが出来ました。

幸い公演の中止はわずかでしたが、コロナ対策の下での演奏会の開催は、多くの高齢ファンの来場見合わせや、座席数規制等も響き、結果として集客は伸びず、また常々から支援してくれる企業や団体の置かれた状況も厳しく、受託公演数は増やすことが出来ませんでした。

結果として、演奏収入が目指す水準に回復するまでは遠く及ばず、2021年度の業績にもそのダメージが響きました。

復を目指す楽団、楽員にとっても大変貴重な機会となりました。

また、年度後半には、カーチュン・ウォンの首席客演指揮者就任や、広上淳一のフレンド・オブ・JPO(芸術顧問)就任の発表という新たな指揮者体制も打ち出し、芸術面の更なる向上に向けた明確な道筋を示すことができました。

(2)コミュニケーションの毀損～ほとんど進まず～

第2の「コミュニケーションの毀損」からの回復については、人々に心の交流の場を提供できるという音楽の持つ大切な役割を、コロナ禍前のように果たすことが出来ませんでした。ただ、コロナ禍での活動を通じて、生の音楽がもたらす感動とその素晴らしさが人の心を揺り動かす原動力であることを改めて実感させられました。

この間、日本フィルを応援してくれた多くの支援者や

大切なファンのご恩に報いたいとの思いから、本年2月に“日本フィルメンバーからの感謝の室内楽”を開催、御礼と感謝の気持ちを伝えるための「特別コンサート」を実施し、多くの皆さまにお越しいただきました。

また、演奏会場のみならず新しい音楽の楽しみ方の提供を強化し、定期演奏会の映像配信の恒常化(メンバーズTVUチャンネル/P.13)や、貴重な音源を活用した“JPO”ブランドによるCDの発売、ジョイサウンドを運営する(株)エクシングとの連携による第九演奏会のカラオケボックス内での配信事業の開始、受託演奏会や学校の鑑賞教材としての限定オンライン配信など、新たな方法を活用してコミュニケーション・ツールの拡大を試みました。

コミュニケーションの毀損からの回復は、まだまだ遅々たる歩みではあるものの、今後もいろいろな機会を模索してまいります。

(3)財政面の毀損～基本財産の積み増しは確実に前進～
前年度に大きく落ち込んだ基礎収支の赤字の改善

まとめ

2021年度は、年間を通じて、他楽団と比べて最も厳しいコロナ対策を取りながら、定期公演は勿論のこと、夏休みコンサート、第九演奏会、また前年度は中止となった九州公演を無事終わらせることができました。

常々私たちは、日本社会における文化芸術を大切に考える気風の薄さや、経済等に比べてどうしても軽んじられる風潮、また欧米に比して貧小な国の文化芸術政策、翻って、オーケストラ業界の問題共有の在り方や社

は思ったほど捗らなかったものの、多くの助成金や皆様からいただいた寄付を原資に、“基本財産”は、前年と比べて大幅な積み増しが実現出来ました。

これは、日本フィルを愛する多くのファンからの寄附は勿論のこと、ある篤志家から多額の寄付をいただくという幸運にも恵まれ、改めて感謝申し上げます。

基礎収支の赤字も、結果として、上述の寄付も含めて国からの様々な助成もあって、最終損益は前年度に続き黒字を確保し、正味財産の増加につながりました。

一方、楽団の日々の活動を支えるキャッシュフローは、年間を通じて不安なく維持することが出来ました。2022年度も演奏活動の継続的維持と社会に向けた新たな事業の展開を支えられるように、十分留意してまいります。

会発信力の不足、またコロナ禍も含めた時代の変容に戸惑うオーケストラ自体の未熟さなど、自戒を籠めて、話してきましたが、一方で、深刻なコロナ禍の下でも心からクラシック音楽を愛する多くのファンや諸団体が、揺るぐことなく活動を支えてくださったお陰で、辛うじて要である芸術性を維持し、演奏活動を継続することができました。心から感謝の気持ちでいっぱいです。

Data 2021年度活動回数一覧

	主催	受託(共催含む)	計
オーケストラ公演	75	58	134
室内楽公演 (*「被災地に音楽を」)			147(*5)

Data 2021年度配信回数一覧

	公演数
有料配信	33
クローズド配信	2
計	35

来日中止となった公演一覧

日程	公演	予定していた出演者
2021年4月16日	第366回横浜定期演奏会	アレクサンドル・ラザレフ
4月18日	第391回名曲コンサート	
5月21日	第368回横浜定期演奏会	ピエタリ・インキネン、ダニエラ・ケーラー、アネリー・ペーボ、サイモン・オニール、ボンガニ・ジャスティス・クベカ
5月23日	第392回名曲コンサート	
6月 6日	特別演奏会	アレクサンダー・リープライヒ
6月11日、12日	第731回東京定期演奏会	MUSO
7月 9日、10日	第732回東京定期演奏会	アレクサンダー・リープライヒ
2022年1月14日、15日	第737回東京定期演奏会	ダレル・アン
3月 4日、5日	第738回東京定期演奏会	ファンホ・メナ、クララ・モウリス

Data 2021年度経営報告

1.貸借対照表 (2022年3月末現在、単位:千円)

科目	金額
I.資産の部	
1.流動資産	586,299
2.固定資産	416,387
資産合計	1,002,686
II.負債の部	
1.流動負債	257,945
2.固定負債	384,690
負債合計	642,636
III.正味財産の部	
正味財産合計	160,050
負債及び正味財産合計	1,002,686

2.正味財産増減計算書

科目	金額
経常収益	1,361,893
経常費用	1,323,540
経常外損益等	37,142
当期正味資産増	201,139

3.当期損益/一般正味財産期末残高



オーケストラ・コンサート

2021年度に実施したオーケストラ・コンサートの状況は、前年度よりは若干明るい兆しは見えただものの、やはり多くの変更を迫られる一年でした。

特に海外からのアーティスト招聘には多くの労力と時間を費やしながらかも、その努力が結実しない場面も多く、代替の出演者やプログラムの組み直し、それらに伴い団内外との調整に追われました。その意味では本来あるべき「芸術性の追求」を極めきれなかったことに悔しさが残ります。

一方で、オーケストラ・指揮者・ソリストそしてお客様の理解と協力を得て、様々な制限下ならではの企画で、クラシック音楽の底力を発揮することができました。

当初のプランが崩れたことにより、期待していた効果や経済的安定、そして社会性の拡充といった目標を十全に満たすことが出来たとは残念ながら言うことが出来ません。そのような中で、外国人指揮者陣の待望の来日は明るい希望となりました。一方でこのような時期だからこそ、日本の耳の肥えた聴き手を魅了する公演づくりにより一層の知恵と努力が必要であることを痛感しています。



首席指揮者 ピエタリ・インキネン ©山口敦
 桂冠指揮者兼芸術顧問 アレクサンドル・ラザレフ ©山口敦
 桂冠名誉指揮者 小林 研一郎
 フレンド・オブ・JPO(芸術顧問) 広上 淳一 ©Masaaki Tomitori
 正指揮者 山田 和樹 ©山口敦
 首席客演指揮者 カーチュン・ウォン ©Angie Kremer

定期演奏会

◆東京定期演奏会(サントリーホール、金曜日/土曜日2回公演)

桂冠指揮者兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフや、本年度就任した首席客演指揮者カーチュン・ウォンといった中軸となるアーティストと共に、充実した芸術性を伴った公演を実現させることが出来ました。

5,6,7,1月の公演において海外アーティストが感染症水際対策の影響で招聘できず、変更を余儀なくされたものの、日本人指揮者もその底力を遺憾なく発揮し、若い角田鋼亮とのウィーン、(ピエタリ・インキネンの代役)鈴木優人との北欧、そして阪哲朗のお正月プログラムなど、明確な個性と音楽性に彩られたプログラムを届けまし

た。ベテランの広上淳一、阪哲朗らの円熟味も存分に披露され、バラエティある曲目を充実した内容で届けることが出来ました。

定期演奏会のプログラムは年度を超えた網羅的なものや、指揮者自身の芸術性と不可分なものが多く、指揮者の変更に伴い企画変更も必須となりました。海外アーティストの入国条件が徐々に緩和されていく中で、2022年度こそは当初掲げた企画意図や目標に沿った形の公演実現を目指してまいります。そして、かつての活気が再びサントリーホールに戻ってくることを強く望んでいます。

No.	出演	プログラム
4月 729	指揮:アレクサンドル・ラザレフ	グラスノフ:交響曲第7番 ストラヴィンスキー:バレエ音楽《ペトルーシュカ》(1947年版)
5月 730	指揮:鈴木 優人 ヴァイオリン:辻 彩奈	ステンハンマル:序曲《エクセルシオール!》 シベリウス:ヴァイオリン協奏曲 シベリウス:交響曲第6番
6月 731	指揮:広上 淳一 ヴァイオリン:小林 美樹	ドヴォルジャーク:ヴァイオリン協奏曲 ブルックナー:交響曲第6番
7月 732	指揮:沖澤 のどか ヴァイオリン:三浦 文彰	モーツァルト:オペラ《魔笛》序曲 ベルク:ヴァイオリン協奏曲 メンデルスゾーン:交響曲第3番《スコットランド》
9月 733	指揮:山田 和樹	ショーソン:交響曲 水野修孝:交響曲第4番
10月 734	指揮:アレクサンドル・ラザレフ ピアノ:福間 洸太郎	R=コルサコフ:組曲《金鶏》 R=コルサコフ:ピアノ協奏曲 ショスタコーヴィチ:交響曲第10番
11月 735	指揮:角田 鋼亮 ヴァイオリン:郷古 廉	J.シュトラウス2世:ワルツ《ウィーンの森の物語》 コルンゴルト:ヴァイオリン協奏曲 シュミット:交響曲第4番
12月 736	指揮:カーチュン・ウォン トランペット:オットヴィアーノ・クリストフォリ	アルチュニアン:トランペット協奏曲 マーラー:交響曲第5番
1月 737	指揮:阪 哲朗 箏:遠藤 千晶	シューベルト:劇音楽《ロザムンデ》序曲 八橋検校:乱輪舌(箏 独奏) 石井真木:箏とオーケストラのための雅影 八橋検校:六段の調(箏 独奏) ブラームス:交響曲第3番
3月 738	指揮:広上 淳一	ラヴェル:スペイン狂詩曲 ラヴェル:ラ・ヴァルス ラフマニノフ:交響曲第3番

◆横浜定期演奏会

(神奈川県民ホール、ミュザ川崎シンフォニーホール、カルツかわさき)
 非常に苦しい1年間ではありましたが、なんとか芸術性とポピュラリティが両立したプログラムをお客様に届けることができました。

一方、海外からのアーティストを招聘できなかったことも多く、特に日本フィルの「看板商品」とも言うべきピエタリ・インキネンとのドイツ音楽や、アレクサンドル・ラザレフとのロシア音楽を本来の予定通りお届けできなかったことは残念でした。

また10月は、感染症対策として非常に厳しい感染対策「バブル方式」で公演を行ったため、指揮者アレクサンドル・ラザレフとオーケストラ、そして聴衆との間に距離

を設けるなど、演奏者にも聴き手にも大きな不便を強いることになりました。

12月の「第九」公演においては、各種ガイドラインに基づき、通常200名規模の合唱団と共演していたところを、60名に人数を絞った形で実施しました。

舞台上やバックステージの距離確保に伴う人数制限などが一刻も早く緩和されて、本来あるべき姿での音楽表現が実現できる環境作りに向け、関係各所とも連携をとってまいります。皆様に企画の意図を十分にお伝えできる演奏環境の回復を目指してゆきたいと思っております。

横浜定期演奏会は、今後も、より一層バラエティ豊かで、神奈川の文化振興につながるコンサートを作り出してまいります。

No.	出演	プログラム
4月 366	指揮:沼尻 竜典 ピアノ:河村 尚子	シューマン:ピアノ協奏曲 ショスタコーヴィチ:交響曲第5番
5月 367	中止	中止
6月 368	指揮:田中 祐子 ヴァイオリン:神尾 真由子	ワーグナー:ジークフリート牧歌 ブラームス:ヴァイオリン協奏曲 ベートーヴェン:交響曲第5番《運命》
7月 369	指揮:藤岡 幸夫 ヴァイオリン:木嶋 真優	ハチャトゥリアン:組曲《仮面舞踏会》より「ワルツ」 ショスタコーヴィチ:ヴァイオリン協奏曲第1番 ストラヴィンスキー:バレエ組曲《火の鳥》(1919年版)
9月 370	指揮:梅田 俊明 ピアノ:小山 実稚恵	ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第3番 R=コルサコフ:スペイン奇想曲 チャイコフスキー:幻想序曲《ロメオとジュリエット》
10月 371	指揮:アレクサンドル・ラザレフ チェロ:宮田 大	ドヴォルジャーク:チェロ協奏曲 ブラームス:交響曲第2番
11月 372	指揮:ピエタリ・インキネン ヴァイオリン:扇谷 泰朋	ブラームス:悲劇的序曲 ヴィエニャフスキ:《ファウスト》による華麗なる幻想曲 ブラームス:交響曲第1番
12月 373	指揮:角田 鋼亮 ソプラノ:澤江 衣里 アルト:金子 美香 テノール:村上 公太 バリトン:青山 貴 合唱:東京音楽大学 オルガン:花澤 絢子	J.S.バッハ:目覚めよと、呼ぶ声す レーガー:クリスマスの夢 J.S.バッハ:トッカータとフーガ ニ短調 (以上3曲オルガン独奏) ベートーヴェン:交響曲第9番《合唱》
1月 374	指揮:井上 道義	モーツァルト:交響曲第41番《ジュピター》 ハチャトゥリアン:組曲《仮面舞踏会》よりワルツ チャイコフスキー:バレエ音楽《白鳥の湖》よりワルツ 池辺晋一郎:ワルツと語ろう(井上道義委嘱作品) チャイコフスキー:交響曲第6番《悲愴》より 第2楽章ワルツ J.シュトラウスII世:ワルツ《春の声》
3月 375	指揮:大植 英次 ヴァイオリン:小林 美樹	メンデルスゾーン:ヴァイオリン協奏曲 マーラー:交響曲第1番《巨人》



10月アレクサンドル・ラザレフ公演は「バブル方式」にて開催



2年ぶりに来日が叶った首席指揮者ピエタリ・インキネン

その他の演奏会(首都圏)

幅広い聴衆育成とクラシック音楽の普及を目指し、多彩な公演を行いました。

長年続いている大人気シリーズ、桂冠名誉指揮者小林研一郎との「コバケン・ワールド」を好評のうちに全3公演を実施することが出来ました。

2021年1月に予定されながらも緊急事態宣言発出にともない中止となった「コバケン・ワールド in KYOTO」も、同年4月に当初の予定通りのプログラムで初回を実施することが出来ました。

「第九特別演奏会」は、昨年に引き続き、声楽が関係

するため、コロナ対策により一層の配慮を必要としましたが、今回はアマチュア合唱団の出演も可能となったことは大きな前進でした。舞台上の人数を制限(オケは最大12型、合唱は60名まで)する形で、実施することができました。

他にも「名曲コンサート」、「芸劇シリーズ」、そして「特別演奏会」等で、厳しい制限の中ではありますが、クラシック音楽の普及に取り組みました。

幸いにして団内のコロナ感染を理由とした中止公演が一つもなかったことは、誇るべき実績だと考えます。

その他の主な共催事業

◆相模原定期演奏会

9年目を迎えた相模原定期演奏会。21年度は10月にラザレフ、22年3月には久しぶりの日本フィル登場となる現田茂夫との共演でした。特に前者は来日が危ぶまれた中での開催、しかも海外アーティストの感染症対策として「バブル方式」での公演実施という異例だらけの公演となりましたが、ラザレフ自身のユーモアやお客様のご理解によって無事公演を終えることができました。相模原の地で外国人指揮者によるオーケストラ公

演は決して多くはなく、地域の文化活性に少なからず寄与できたと考えております。

一方で2019年まで併設されていた伊勢丹の解体工事に伴い、相模大野駅からホールまでのアクセスが悪化してしまったことは大きな課題と言えます。

◆さいたま定期演奏会

通算130回を数えるに至ったさいたま定期演奏会。現時点ではソニックシティの改修工事に伴い、浦和の埼玉会館に場所を移して実施しています。単純にキャパシティが半分になっただけでなく、感染症対策の一環

で使用可能客席数が限定されるなど、これまでにない苦難を強いられました。

今後は23年3月からのソニックシティ復帰に向け、客層の呼び戻しと新たな掘り起こしを目指します。

◆とっておきアフタヌーン

Vol.16~18となった2021年度もサントリーホールとの共催により、引き続きクラシック音楽を初めて聴く方にも親しみやすく多彩な音楽の世界をご案内いたしました。「とっておき」の話題が聞ける出演者のトークも毎

回大好評。また、緊急事態宣言発出などで会場に足を運ぶことを控えてしまう方に対しても、ご自宅やお好きな場所で演奏をお楽しみいただくために、「有料オンライン配信(ライブ&見逃し配信)」を全公演で実施いたしました。

Data 2021年度オーケストラ公演の内訳

主催公演	公演数	入場者数(約)
東京定期演奏会	20	20,000
横浜定期演奏会	9	7,000
名曲コンサート	4	4,500
芸劇シリーズ	4	3,700
コバケン・ワールド	4	5,500
その他	4	3,000
夏休みコンサート	14	20,000
「第九」特別演奏会	6	8,000
九州公演	9	6,500
特別演奏会	1	1,000
計	75	79,200

受託公演	公演数
一般公演(共催含む)	49
音楽教室/学校公演	9
計	58

社会への取り組み

◆エデュケーション・プログラムの実施状況

日本フィルの活動の特徴づける細やかで幅広いエデュケーション・プログラムは、昨年度と比してもかなり通常に戻すことができました。

【夏休みコンサート】

日本フィル夏休みコンサートは、1975年の第1回公演以来、幅広い地域で半世紀近くにわたり、感受性豊かな子どもたちに本物のオーケストラによるクラシック音楽を体験出来る機会を届け続けてきました。

2020年には実施できなかった同公演ですが、2021年度には最大限の感染防止対策を施し、開催することができました。

コロナ以前のような懇談会等の交流イベントは、行うことは出来ませんでした。コンサートそのものは集中開催。集客も予想よりも多くの方にご来場いただき、多くのご家族から期待されている企画であることを改めて認識することができました。

但し、一方で緊急事態宣言の発出に伴い、福島と京都での公演は実施できませんでした。



第1部より(2021年7月19日)

【春休みオーケストラ探検(エデュケーション フェスティバル in 杉並 2022)】

今年は「音楽のおもてなし〜なりきり音楽会〜」と題し、おなじみのオリジナル・キャラクター「みるちゃん・きくちゃん・さわちゃん」の口特大パネルを設置。フォトスポットでは、おめかしした子どもたちが親子で記念撮影。2回のオーケストラ・コンサートは、相田みつをの詩の朗読や、お隣のお友達と音楽に合わせて挨拶するなど、参加型要素を取り入れたオリジナル・ストーリーで約60分のコンサートをお楽しみいただきました。

昨年度に比べて来場者数が2倍以上であったことから、家族で楽しめる春休みオーケストラ探検への期待が伝わってきます。多くの子どもたちに愛されるフェスティバルであり続けるよう、今後も大切に育ててまいります。



笑顔で、また会いましょう!

【室内楽等による取り組み】

■自治体との連携

杉並区小中学校出張コンサート

さいたまプライマリーコンサート

「杉並区多文化共生型ワークショップ」日中韓の文化交流を促進。

■大学と連携した取り組み

「女子美術大学ヒーリング表現領域への音楽ワークショップ」(オンライン授業)



杉並区内の大学に通う中国人留学生、韓国人留学生と日本の高校生が交流しました。WSを通してお互いの文化の違いを学びました。(10月2日開催/主催:杉並区共催:日本フィルハーモニー交響楽団)

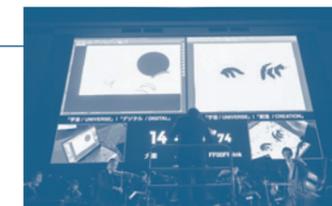
【その他の活動】

■企業との連携

(株)ワコムが開催する「Connected Ink2021」に出演

■文化庁主催「文化芸術による子供育成総合事業」

■「杉並区音楽鑑賞会」



Connected Ink2021



「文化芸術による子供育成総合事業」

Data 2021年度エデュケーション・プログラム、その他の内訳

夏休みコンサート(主催)	14	インターンシップ	なし
春休みオーケストラ探検	2	プレイベント	4
学校・施設訪問コンサート	36	アフターイベント(楽員とのオンライン懇談等)	2
オーケストラたんけん隊	中止	プレトーク(オーケストラ・ガイド等)	21
公開リハーサル	6	ワークショップ	15
職場訪問	なし	クリニック	12
60歳からの楽器教室	198		

◆ リージョナル・アクティビティの実施状況

日本フィルは音楽の素晴らしさ、面白さをより多くの方に届け、地域全体の活性化に貢献する「リージョナル・アクティビティ」を活動の柱に据え、主として室内楽等によるきめ細やかな活動を行っています。コロナ禍で社会全般に活動のローカル化が進む中、地域社会への貢献は、オーケストラにとって今後ますます大きなテーマとなっていくと考えています。

【杉並区での活動】

1994年に友好提携を結び、四半世紀以上にわたり多彩な活動を行っている杉並区とは強い信頼関係を基礎に、さまざまな事業を開催しました。

区制90年を迎える2022年を前に、「杉並区の曲」の作曲委嘱を受けて、吹奏楽界の巨匠福島弘和氏に作曲を依頼、完成しました。同曲は2022年に杉並区内で発表されるほか、全国の学校吹奏楽部での活用やそれを通じた日本フィルとのコミュニケーションを目指しています。

杉並区・杉並公会堂と実施している「杉並公会堂シリーズ」を通常通り7公演開催。高齢化とコロナ禍の状況を踏まえた平日昼の公演開催にも取り組み、今後のコンサートの在り方を模索しています。

9月には杉並区敬老会が再開され、今回も小編成のメンバーで出演。多くの高齢者がつめかけました。その他小中学校や区内施設への出張音楽教室・出張コンサート、区民へのリハーサルの公開、区役所ロビーコンサートなど、区との友好提携に基づく事業も対策を講じて実施。また前述の通り「多文化共生型ワークショップ」では音楽を通じた多文化の相互理解を目指す取り組みも行いました。

【九州公演】

九州公演は、自主参加の市民ボランティアによる実行委員会が日本フィルとともに公演の制作・運営を行うという、日本でも類を見ない協同スタイルで継続しています。47年目となる今年度は文化庁「劇場・音楽堂等機能強化推進事業（劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業）」の補助を受け、また各地実行委員会の総意も受け、2年ぶりに通常の公演（唐津のみ、会場の閉館により小編成オーケストラ）、全県10都市で実行委員会全体の協力のもと実施することとなりました。

2年ぶりの公演実施に大きな期待が集まった反面、コロナ禍の中で集客にはたいへん苦勞しました。またまん延防止等重点措置に伴う市の方針により、直前に長崎公演が中止、さらに指揮者ピエタリ・インキネンも来日できず、急遽横山奏、永峰大輔の2名の日本人指揮者に変更になりました。感染防止対策として、各地実行委員と楽団員との交流も厳しく制限した中での公演開催となりましたが、全実行委員の格別の理解と協力で、フル・オーケストラによる2週間にわたる旅行が無事に終了しました。

九州における地域と楽団との交流は地道な努力の積み重ねで継続してきました。今後この絆が途切れないよう、九州の文化振興のために、より緊密なコミュニケーションと連携の必要があります。大牟田、唐津では行政との連携の可能性も現実味を帯びており、引き続き実行委員会を媒介とした各地との繋がり和社会性強化に努めます。

Data 杉並区との友好提携に基づく活動回数

杉並公会堂シリーズ [杉並区との友好提携による公演]*	4
区役所ロビーコンサート	4
公開リハーサル	4
出張音楽教室	11
公募出張コンサート	2
区施設出張コンサート	6
小中学校音楽鑑賞教室(オーケストラ)	8
区内ホール等のリハーサル使用	60

*夏休みコンサート含む

Data その他杉並区での活動回数

春休みオーケストラ探検	2
杉並公会堂シリーズ [杉並公会堂(京王設備サービス)・日本フィル共催公演]	3
60歳からの楽器教室	198



横山奏(指揮)、神尾真由子(ヴァイオリン)



永峰大輔(指揮)、上原彩子(ピアノ)

【宇部公演】

「宇部興産チャリティコンサート」は、毎年恒例の宇部興産株式会社(2022年4月1日よりUBE株式会社に社名変更)の地域貢献活動として着実に定着し14回目となりました。コロナ禍で開催が危ぶまれましたが、「宇部の音楽の灯を絶やせない」という同社の意気込みで、感染防止策を徹底し、座席数を5割に絞り込んだうえで開催にこぎつけることができました。楽団員らには全員PCR検査を実施したうえで空港からの市内移動は全てバスで集団移動、残念ながらも宇部市民との接触をさける形で実施しました。

苦勞の甲斐もあって演奏内容は非常に充実したものでした。演奏は地元FM局により市内に生中継を行いました。また、公演に付帯して行っている地域還元プログラムもコロナ禍に対応し内容を変更、幅広い事業を継続的に行いました。病院への訪問コンサート等は、演奏を収録したDVDを使用して実施、また市内中学校へのクリニック指導はオンラインでのリモート個人レッスンとして、延べ9回にわたり実施しました。

音楽を通じた地域貢献活動として日本フィルの活動の柱がすべて発揮される本公演を、今後も引き続き企業・自治体と一体となって積極的に展開してまいります。

【落合陽一×日本フィル プロジェクトVOL.5《醸化する音楽会》】

「テクノロジーによってオーケストラを再構築する」というテーマのもと、2018年から継続している「落合陽一×日本フィルプロジェクト」は、オーケストラの新たな魅力と価値を広げるとともに、聴覚と触覚や視覚などの分断を廃し、人間の五感の共感的な「身体性」を演出する数々の取り組みを重ねてきました。

コロナ禍での2回目の開催となった2021年度公演では、この間失われつつあったリアルな身体的体験の回復を目指し、生のオーケストラを通じて五感を総動員させ、嗅覚味覚も取り混ぜた「身体的体験としての音楽会」という挑戦的企画を実施。プログラムでは「嗅覚」「味覚」と音楽とのコラボレーションを目指し、オリジナルの香りサンプルやグミと音楽の「マリアージュ」体験、日本酒をテーマにした楽曲を取り入れ、聴覚とシンクロするライブの視覚演出とともに演奏しました。またオリンピック・イヤーを記念した電子音楽の蘇演といった内容により、クラシックになじみの薄い聴衆

に高い満足度を与える効果を得ました。

クラウドファンディングも実施し、700万円を超える支援をいただきました。



《醸化する音楽会》

【音楽の楽しみを深め、広げる活動「温かさ」+「新たな挑戦」】

日本フィルの特徴である「温かさ、人に寄り添う」を活かした活動を、コロナ禍においてもできる限り継続し、音楽の持つ楽しみをより多くの方に広め、また、聴き手の皆様により深く音楽を楽しんで頂くよう、今年度も工夫を行いました。

音楽を必要とする人々への取り組みとして行ってきた、学校・施設訪問、主催公演での託児サービス、ハンディキャップを持つ方のための割引や若い世代への割引料金の設定、聴覚障害のある方へのボディソニック(体感音響システム)等は、2021年度もコロナ前の状況への回復

が叶いませんでした。また、テレビマンユニオンでの映像配信も継続して実施いたしました。

従前行ってきた演奏会場でのプレトーク、アフタートークは復活した半面、楽員と聴衆との交流は中断されたまま、新たな企画を生み出すにも至りませんでした。しかし「日本フィルはここから進む!コンサート」は演奏によって感謝を伝える企画として継続。「社会に向けた取り組み」の可能性を模索し、オーケストラの果たしうる役割を拡充してまいります。

「被災地に音楽を」 「東北の夢プロジェクト」

東日本大震災の発生から11年が経過し、「被災地に音楽を」の活動は2022年3月に307回を重ねました。震災直後の混乱の中で訪問し、何が出来るかわからない中で被災者の気持ちに少しでも寄り添い、力になることができれば活動を続けてきましたが、2017年の調査により、現地のニーズが、震災当初の「音楽による心の慰め、癒し、励まし」から「芸術文化に触れる機会」「地域内外の交流」「地域の状況を外部に発信する」というように、時とともに変化してきました。こうしたニーズの変化に合わせて地域の実情や要望を採り入れた活動に重心を移してきました。

2019年からは新たな活動の柱として、東北の子どもの夢と未来を応援するため、学校や地域の子どもの活動(音楽、伝統芸能など)をオーケストラ公演で広く紹介する「東北の夢プロジェクト」を創始し、地域内外の交流と文化発信の場作りを行っています。2021年には2回目の公演が実現し、宮古市の宮古高校吹奏楽部、陸前高田からは伝統芸能の「気仙町けんか七夕太鼓」を子どもたちが披露、大きな歓声を浴びました。本プロジェクトでは沿岸部で独りで暮らす高齢者をバスツアーで会場にお迎えしています。次年度以降も引き続き継続したいと考えています。

また、震災から11年を経て、地域ごとに様相が変化

しています。沿岸部の被災地への訪問については、現地との連携により地域の状況を把握しながら、それぞれの地域の活性化を目指して実施しています。2021年度は、残念ながらコロナ禍の影響により例年通りの訪問は難しい状況でしたが、機を伺いながら活動を行いました。

毎年活動を行っている宮古市からは、ホールの主催事業に招かれ、日本フィルの映像とダンスのコラボレーション企画のゲストとして弦楽四重奏が出演。併せて地域向けに子どもたちとの交流事業、地域住民向けのコンサートを開催しました。岩手県胆沢郡では胆沢文化創造センターの招きにより奥州ジュニアオーケストラとの合同コンサートを「東北の夢プロジェクト」の連携企画として開催しました。

福島県三春町まほらホールからはニューイヤーコンサートにオーケストラが出演し、併せて地域の子どもの鑑賞事業も開催しました。また、新型コロナウイルスの感染拡大により訪問が困難な福島県南相馬市の原町第一中学校には、オンラインによるレッスンを行いました。同事業は協力企業のカラオケボックスを活用する新たな取り組みとなりました。これからも多くの方々と力を合せて、被災地での事業を継続していきたいと考えています。

■ 東北の夢プロジェクト



宮古高校吹奏楽部のリズムカルな演奏



気仙町けんか七夕太鼓を受け継ぐ子どもたちによる迫力ある演奏



会場みんなで盛り上がる参加型第4部

■ 被災地に音楽を



宮古市高齢者施設でのコンサート



南相馬市原町第一中学校とのオンラインレッスン



Japan Philharmonic Orchestra Recordings

「あらゆる人々へ、世代へ、地域へ、世界へ」を活動の指針として、社会的活動を含む多くの事業を行っている日本フィルは、コロナ禍でライブの演奏会へのご来場が困難と感じる方にも音楽をお楽しみいただく機会を増やすため、楽団創立65周年を迎える2021年、音源の活用強化を目的として自主レーベルを設立いたしました。日本フィルの歴史に触れる「温故知新」の配信にご期待ください!

ストリーミング&ダウンロード聴取方法

PCまたはスマートフォンでお聴きください。
オーディオシステムにつないでもお楽しみいただけます。

右のリンクに進むと、ストリーミングサービスの一覧が表示されます。お好きなサイトを選んでお聴きください。主な配信サイトでは、「日本フィルハーモニー交響楽団」のアーティストページから曲を選んでお聴きいただけます。



主な配信サイト

ストリーミング配信サイト:

Apple Music、Spotify、Amazon Music、YouTube Music、Deezer(ハイレゾ対応サービスあり、「尾高惇忠作品集」以外) LINE MUSIC、AWA、dヒッツ他「尾高惇忠:管弦楽作品集」

ダウンロード販売サイト

ダウンロード(ハイレゾ)

e-onkyo music、mora、レコチョク

ダウンロード(通常音質)

iTunes Store、Amazon digital、mora、レコチョク
「mora、レコチョク」以外は「夏休みコンサート」、尾高惇忠のみ取扱

Member's TVU CHANNEL CLASSICAL MUSIC

クラシカルミュージック

<https://members.tvuch.com/>



Member's TVU CHANNELは、クラシック音楽のコンサートの臨場感をいつでもどこでもお楽しみいただけるインターネット・サイトです。コンサートホールからのライブ配信、さらにコンサートが終わったあともアーカイブ映像としていつでも視聴可能です。

これまでテレビマンユニオンチャンネル(tvuch.com)では、クラシック音楽を気軽に楽しめるように、コンサート映像を10分前後に短く抜粋して無料でお届けしてきました。Member's TVU CHANNEL(メンバーズ テレビマンユニオンチャンネル)では、より本格的に、コンサート全体を有料で配信しています。日本フィルの配信一覧はこちら。 <https://japanphil.or.jp/orchestra/news/24350> 登録・ご購入の上、お楽しみください。*日本フィルの公演は「JPO」で検索できます。



感動したその演奏会を、公演には行けなかった大切な人にプレゼントできるようになりました!

まずはID登録!

メールアドレスと
パスワードのみで簡単!

- メールアドレスとパスワードを登録し、届いたメールからURLをクリックしたのち、ご希望の公演を選び、クレジットカード(VISA, MASTER, JCB, Diners Club, Discover)でお支払いください。
 - Internet Explorerは対応しておりません。chrome, Microsoft Edge, safari, firefox等でご利用ください。
 - 視聴する際は、ログインし、該当公演またはマイプレイリストからご覧ください。
 - 配信当日は、配信の20分前から映像が切り替わる予定です。
- ※通信にかかる費用はお客様のご負担となります。Wi-Fi環境での視聴をお勧めします。

演奏会評

小林 研一郎指揮 日本フィル チャイコフスキー交響曲全曲チクルス第1回

2020年4月、80歳の誕生日を迎えた小林研一郎。昨年はチャイコフスキー生誕180年のメモリアル・イヤーと重なり、桂冠名誉指揮者を務める日本フィルハーモニー交響楽団を指揮してチャイコフスキー交響曲全曲チクルスを敢行することになっていた。それがコロナ禍によって延期となり、ようやく今年になって開催された。

初日は交響曲第1番「冬の日の幻想」と交響曲第4番というプログラム。「炎のコバケン」と称される小林研一郎は、日本フィルとともに類まれなる集中力と緊迫感に満ちた演奏を繰り広げ、オーケストラからもてる最大限のものを引き出し、演奏を高みへと引き上げた。

交響曲第1番は全編にロシアの冬の情景と雰囲気が映し出され、広大で荒涼とした大地が連想される。その深々とした音楽を視覚的な表現で演奏。

さらに交響曲第4番は冒頭のホルンの響きからフィナーレまで管楽器が大活躍し、分厚いオーケストラの響きを編み出した。印象的だったのはクライマックスに突き進む熱く深く迫りに富む表現で、圧巻のフィナーレを生み出す。

しかし、コバケンチャイコフスキーの作品に潜む悲愴感、悲哀を示すことを忘れない。その悲劇性が聴き手の胸に作品の奥深さを伝え、チャイコフスキーの神髄を知らしめた。

終演後、コバケンは「ありえないことかもしれませんが、もしも10年後にまたこのような…」と語りかけ、聴衆の大喝采を浴びた。みな、その心意気にエールを送ったのである。

(MOSTLY CLASSIC 2021年7月号より転載 伊熊 よし子)



アレクサンドル・ラザレフ指揮 第729回 東京定期演奏会

ラザレフが14か月ぶりに日本フィルのステージに帰ってきた。

前半はグラズノフの第7交響曲「田園」。おどけた様子で指揮台に上がる指揮者だが、音楽は相変わらずカミソリのように鋭い。たとえば、ピッコロ・フルートの音色効果。ホルンなど併奏する楽器の高次倍音をきっちりと埋めていく。それが第3の音色を生み、作曲家の管弦楽法の巧みさを浮き彫りにした。

作品に対する演奏者の献身は、ストラヴィンスキーの「ペトルーシュカ」でも、謝肉祭に沸く市場を舞台にした物語上も、バレエ音楽という用途上も、躍動感が鍵となる同作品。それを奏法の基礎から仕上げていくのが、この指揮者の身上だ。

弦楽器の上げ弓が「登場人物」の跳躍を、下げ弓が力強い着地をトレースする。一方、管打楽器は前半同様、場面の雰囲気作りのために、繊細に響きを作る。そんな両者をラザレフが鼓舞すると、サウンドは大胆に姿を変える。

指揮者と奏者の信頼関係の深さを目の当たりにした一夜。

(MOSTLY CLASSIC 2021年8月号より転載 澤谷 夏樹)



広上 淳一指揮 第731回 東京定期演奏会

進境著しい小林(美樹)をソリストに迎えた日本フィル定期。前半はドヴォルジャークの協奏曲だった。小林のソロは情感豊かによく鳴り、繊細な歌心も感じさせる聴き応えのあるものだった。広上は小林のソロにほどよく寄り添いながらのサポートぶりを見せたが、ドヴォルジャークならではの民族的色彩については、ソロ、オーケストラともどもいぶんあっさりしたものを感じられた。アンコールはJ.S.バッハの「無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第3番」の「ラルゴ」。バッハは小林のスタイルに合ったレパートリーのように、磨かれた音色による気品ある演奏に拍手喝采だった。休憩をはさんだ後半は、ブルックナーの「第6番」。いわゆるブルックナー色がやや薄い交響曲だが、広上のタクトはバランス感覚にも秀でており、充実した演奏だった。この作曲家ならではのオルガン的な荘厳さを日本フィルの上質の金管セクションが巧みに担い、コンパクトに人数を絞った弦楽器とともに、「第6番」のオーケストレーションの魅力に肉薄するものだった。当初の予定から変更されての定期だったものの、広上の新たな境地も含めて聴くことのできた印象深いコンサートとなった。

(音楽の友 2021年8月号より転載 伊藤 制子)



山田 和樹指揮 第733回 東京定期演奏会

フランスと日本の管弦楽作品を組み合わせたプログラムを山田和樹は意図的に続けてきたが、その関連性や相乗的結果に想いを馳せるのは興味深いところ。今回はフランス近代のショーソンと現代日本の水野修孝による「交響曲」。どちらも3管編成ながら、盛り込まれる内容の違いは明白だ。メロディアスで叙情性に溢れた楽想やアカデミックともいえる楽曲構成など、ショーソンの「交響曲」から浮かび上がる特性は瑞々しい。とりわけ繊細な音色効果や風味豊かな旋律の歌わせかたは得心がいく。第2楽章のイングリッシュ・ホルンや第3楽章の楽想の対比とまとめかたなど、作品の要所をつく痛快さがあった。水野修孝の「交響曲第4番」は2003年の作品。「伝統的な」4楽章構成ながら、現代作曲家たちが常に持ち続けていた「交響曲」に対する問題意識が如実に表れている。規範となるソナタ形式の変容もさることながら、バロックから現代に至るクラシックの書法、ジャズやロック、そして民族音楽など水野自身が関わってきた音楽素材が投入される、いわば彼自身の音楽人生を投影した総決算的な感がある。ソロからトゥッティまで多彩なアンサンブル、そして終楽章ではエレキギターやドラムセットまで登場。様々な音楽スタイルが混在しながら違和感なく対応するオーケストラの実践力が聴きものだった。

(音楽の友 2021年11月号より転載 齋藤 弘美)



カーチン・ウォン指揮 第736回 東京定期演奏会 細心の指示 生み出した大河

シンガポール出身の指揮者で人気急上昇中のカーチン・ウォンが9月、日本フィルハーモニー交響楽団の首席客演指揮者に就任した。その披露演奏会である(11日、東京 サントリーホール)。人なつこい表情と瘦身が繰り出す音楽は、濃厚だが決してとどかない。メインのマーラー交響曲第5番はそんなウォンにとって格好の演目。濃淡のコントラストを強くすると同時に、シャープに造形することが可能だからだ。

長い両腕を駆使して細かいパートにまで神経質にキューを出す。重要なフレーズの断片、一瞬のトレモロ、声部間の掛け合いを促すパッセージのやりとり等々、息もつけぬ右手と左手の応酬が続く。それでいて大きな流れは決して途切れず、ことに表情変化の目まぐるしい第1、2楽章は多声法の大河に圧倒される感があった。

日本フィルはそんなウォンの迫真の指揮に負けじと大奮闘。木管の色彩は鮮烈で、トランペットのソロをはじめ、金管群の充実が豪壮な音楽を創り上げた。第3楽章でのオブリガート・ホルンの巧さも特筆に値する。弦楽にもう少し厚みが増えれば、より濃密なポリフォニーが完成するだろうと思われるが、それは今後の課題だろう。

公演前半には、マーラーでもソロを吹いたトランペットのオットー・クリストフの独奏で、アルメニアの作曲家アレクサンドル・アルチュニアンとの協奏曲が披露された。1950年作という時代の空気を映す勇猛果敢さと、哀愁漂う民族色の両面を痛快に描き切る快演。

インキネンやラザレフとのコンビとはまた違った音楽を見出しそうな日フィルに、今後も注目したい。

(2021年12月16日 朝日新聞夕刊より転載 長木 誠司)



ピエタリ・インキネン指揮 第337回 芸劇シリーズ

ベートーヴェン・ツィクルス第3回は《田園》と《運命》。予感があった。《田園》の出だしから弦の美しさが際立つ。淡泊なまでにスルスル進めていく演奏スタイルはインキネンの持ち味だが、以前とは何かが違う。デュナーミクの付けかたの振幅は広がり、サラリとした感触にもかかわらず強弱の付けかたが大胆にさえている。第1、2楽章の理路整然とした全体の整えかたはスマートだが描写は木目細やか。第3楽章以降、「雷鳴と嵐」を頂点としたドラマティックな音楽の流れは指揮に食らいついていくアンサンブルの精度と相まって情感を揺さぶるものがあった。これとは対照的なコンセプトを持つ《運命》と並行して聴くと、インキネンの「変貌ぶり」は明らか。冒頭の動機、2小節目のフェルマータはないに等しい。余分な思い入れを断ち切ったような絶対音楽的な指針を貫く姿勢だ。息をのむような闘争的な激しさを痛感させる第1楽章。速めのテンポの第2楽章、そしてスケルツォではとりわけ弱音のピッツィカート楽想の意味、総じては何を表す楽章なのか? 文字通り「諧謔」を諭し切実に問いかけてくる。終楽章の再現部、そしてコーダの作りの見事さを改めて認識させる感動的な演奏だった。一昨年来のバイロイト音楽祭とのかかわりも今年ようやく成就される予定のインキネン。「バイロイト」によって劇的ともいえる変貌を遂げた彼だけに、来年で当ツィクルス最後となる《第九》が、今から楽しみである。

(音楽の友 2022年6月号より転載 齋藤 弘美)



インキネン、バイロイトで《指環》に挑む ——世界の注目を集めた大抜擢

船木 篤也

＊本稿の校了直前に、インキネン氏が新型コロナウイルスに感染したため2022年夏の指揮を降板するとの報が、バイロイト音楽祭事務局より発せられました。同局は「来年のピエタリ・インキネン指揮による《指環》を楽しみにしたい」としているため、本稿も執筆当時のまま掲載することにします。

ピエタリ・インキネンがバイロイト音楽祭で新演出の舞台祝祭劇《ニーベルングの指環》を指揮する—2019年、この電撃ニュースが届いたとき、「私たちのインキネンが!」と日本フィル・ファンが狂喜したばかりではない。世界中の音楽ファンが、少なからず驚いたはずだ。

登場予定の2020年夏で、インキネンはようやく40歳。バイロイトといえばワーグナー楽劇の「聖地」とも呼ばれる場所であり、上演に4日間を要する四部作《指環》は、彼の楽劇のなかでも最大の規模を誇る、いうならザ・バイロイト・レパートリーである。その指揮を任される者といえば、歳も経験も重ねたベテランである場合が多い。直近の2016年・17年の例でいえば、1939年生まれのマレク・ヤノフスキがそうだった。その前のキリル・ペトレニコは、たしかに若かったが、初登場の2013年の時点で41歳。バイロイト音楽祭の音楽監督を務めたクリスティアン・ティーレマンにしても、ここで初めて《指環》を指揮した2006年には、すでに47歳に達していた。

インキネンは、この音楽祭の戦後史において、1968年に38歳で登場したロリン・マゼールに次いで2番目に若い《指環》指揮者にあたるのだ。しかも、まだドイツ語圏の歌劇場にポストを持った経験がないフィンランド出身の音楽家である。まさに「大抜擢」ではないか。新型コロナウイルスの世界的感染拡大という予期せぬ事態に直面し、2020年は音楽祭自体が中止となり、《指環》全作の上演は2022年、インキネン42歳の夏に持ち越されることになったが、大抜擢という点は変わらないだろう。

そもそも、バイロイト音楽祭とは何か?

ドイツ南東部の小都市、バイロイト。ここで開かれるバイロイト音楽祭は、リヒャルト・ワーグナー(1813-1883)自身が創設したものである。彼自身の呼び方にならうなら、「バイロイト祝祭」となる。上演会場の「祝祭劇場」も、彼の陣頭指揮のもと、一から建てられたものだ。開幕は1876年の夏。以後、経済的な理由や二つの世界大戦によって阻まれながらも、毎夏の開催を原則としてきた。上演されるのは毎年ワーグナーの舞台作品のみ。何かを記念してベートーヴェンの第九交響曲が演奏されることはあるが、これはごくまれな例外である。「音楽祭」としては、かなり特異なものであろう。

もちろん、ワーグナーの強いエゴイズムの現れとみることもできる。けれども、彼が抱いたそもそもの「祝祭理念」には、当時のオペラのあり方に対する、もっといえば芸術の置かれた状況に対する、痛烈な批判が込められていたのである。

専用劇場で「祝祭」を催すアイデアが、彼の中で芽生えたのは1850年頃。ドイツで革命運動に参加し、結果、当局から指名手配を食らい—ドレスデン宮廷劇場の指揮者職は解雇された—スイスはチューリヒに亡命していた頃のことである。ワーグナーは、決まった演目を惰性で舞台にかけただけのオペラ業界に、かねてから不満を抱いていた。歌手はといえば、「のど自慢」に汲々としており、観客も、都会にいてそれを娯楽として消費しているだけである、というのだ。対してワーグナーの理想は違った。

「板材でできた劇場を建て、最適の歌手を集めて、最高のオペラ上演に必要なすべてを整えたい。私の作品に関心をよせるあらゆる方面の人々に招待状を送り、週3回の上演を、もちろん無料で催す。それが終わったら劇場はとり壊すのです。」「どこか美しい田舎で、きょうびの都市文明やら煙や

ら工場が出すペストから遠く離れたところが一番いい。」

こうしたヴィジョンは、自作のオペラ「ジークフリートの死」の構想が四部作《ニーベルングの指環》へと拡大・発展してゆくのと並行して育まれたものであり、その過程でワーグナーは、伝統的な「オペラ」そのものを否定するようになる。その四部作という形態からも、また神話を混合した内容からもうかがえるように、ここには古代ギリシア悲劇からの影響が色濃くある。彼が創るものも、歌、音楽、身体表現を伴うものだが、あくまでも劇＝ドラマであって、特権階級ではない、芸術を愛する誰もが共同で体験すべきものなのだ。

こうした理想が、その4半世紀後に、《指環》全編初演をもってバイロイトに実現をみた—と、まずは大まかに言えるだろう。もちろん、そこに至るまでには、紆余曲折と方針転換があったのである。バイエルン国王、ルートヴィヒ2世の庇護を受けた1860年代には、王のお膝元ミュンヘンに絢爛豪華な祝祭劇場を建てつつもいたし、プロイセン王国が対フランス戦争に勝ち「ドイツ帝国」をまとめ上げると、こんどは宰相ビスマルクとドイツ皇帝にも秋波を送るようになった。これは帝国の祭典です、援助をお願いします、というわけである。

かくして、現実を利用し、現実に飲まれもしたワーグナーとバイロイトであったが、当初の高邁な理想がぜんぶ消えたわけではない。音楽祭の季節にひとたびバイロイトに降り立てば、実感する。ここではワーグナーの思惑どおり、上演に、芸術に集中するしかないようになっているのだ。

開演は16時とかなり早く、晩にそなえて朝食をしっかり摂ると、もうさほど時間はないし、この小さな町に、とくに見るところもない。そして、あの「緑の丘」に建つ祝祭劇場。ひじ掛けもない質素な椅子に座り、開演を待つ。時間になると、すべての扉が一斉にボタンと閉じられ、場内が真っ暗になり、シンと静まり返る。拍手は起こらない。いや、起こしようがない。なぜなら、客席からオーケストラはおろか、指揮者が入ってくる様子も見えないのだから。オーケストラピットの手前半分は、覆いでふさがれたようになっており、もう半分は舞台の下に深く食い込んでいるのだ。人呼んでこれを「神秘的奈落」という。こうなると観客の視線は、どうしたって舞台に集中するほかない。かくして音楽が、文字どおり無の中から立ち上がる。その響きは、ボールがかげら

れたように不思議とやわらかい。それゆえ歌手も、むやみに大声を張り上げる必要がないわけで、声楽的にも理想的な環境であろう。

もっとも、この類例のない劇場構造のために、指揮者は試練に立たされることになる。音量の加減はどうするのが最善か? 歌手とオーケストラをどうやって連携させるか? さらにまた、146年の伝統が重圧としてのしかかる。

ピエタリ・インキネンは、2020年こそ音楽祭中止の憂き目にあったが、翌2021年には、バイロイトで3回指揮することができた。ただし、《指環》4作のうち《ワルキューレ》のみを、セミステージ形式で。パンデミックを受けての特別措置であるが、それでも指揮者とオーケストラは「神秘的奈落」に入った。舞台上には、クラウス・フロリアン・フォークト、トマシュ・コニェチュニ、イレーネ・テオリンといった、錚々たるワーグナー歌手がずらり。インキネンによれば、「まずは《ワルキューレ》だけで試すことができたわけで、これはかえって良かった」とのこと。かつてオペラ・オーストラリアで《ニーベルングの指環》を全編、緑りかえし指揮した経験のあるインキネンである。そののち日本フィルハーモニー交響楽団でも、コンサート形式もしくはセミステージ形式で、《ワルキューレ》第1幕、《ジークフリート》および《神々の黄昏》の抜粋、《ラインの黄金》全部と、《指環》から多くを指揮している。パレルモや、またこの間、ザールブリュッケンでも同様の経験をもった。そのことを思えば、上の発言はいかにも慎重にみえようが、「慎重さ」は音楽家インキネンの美質の一つであり、ことバイロイトでは、必要でもあろう。

そして2022年の夏。ヴァレンティン・シュヴァルツの新演出による四部作《ニーベルングの指環》の全3回公演に、ついに挑む。その成果を、何らかの形で日本フィルでも披露してくれることを期待しよう。

(2022年7月記)



Playback プレイバック～2021年度



PHOTO 1 桂冠名誉指揮者小林研一郎とのコバケン・ワールド、初の京都公演(4月)



PHOTO 2 桂冠指揮者アレクサンドル・ラザレフとは、東京では2019年11月以来となる共演。公演翌日に緊急事態宣言再発出となり、奇跡のような2日間でした。(4月)



PHOTO 3 首席指揮者ピエタリ・インキネンの来日が叶わず、代役として出演した鈴木優人さん。東京定期演奏会デビューとなりました。ソリストは辻彩奈さん(5月)



PHOTO 4 7月東京定期演奏会は、来日が叶わなかったアレクサンダー・リープライヒさんに代わり、沖澤のどかさんが日本フィル初登場(7月)



PHOTO 5 待ちに待った夏休みコンサート!マスクはしたままでしたが、笑顔ははじけました!(7月～8月)

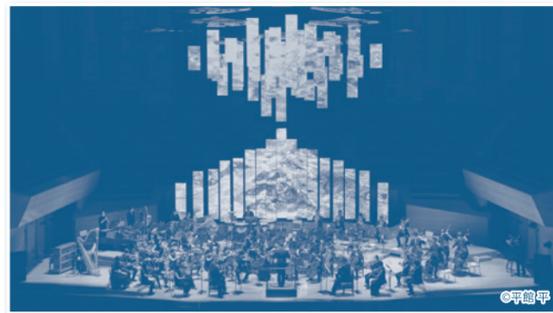


PHOTO 6 落合陽一×日本フィルプロジェクト第5弾は《醸化する音楽会》—五感、解禁!》(8月)



PHOTO 7 正指揮者山田和樹とはコロナ禍で1年越しとなった水野修孝「交響曲第4番」を。水野先生は初日からずっとリハーサルに同席してくださいました。左から益満行裕(事務次長・企画制作部部长)、水野修孝先生、山田和樹(9月)



PHOTO 8 2020年9月の延期から1年強、日本フィル協会合唱団の皆様が結実した《スターバト・マーテル》。園田隆一郎さんとソリストの皆様(10月)



PHOTO 9 厳しい感染症対策でバブルの中でしたが、3年ぶりに横浜定期演奏会にアレクサンドル・ラザレフが登場!ソリストは宮田大さん(10月)



PHOTO 10 時代とともに変遷する音楽都市「ウィーン」のドラマをお届けした角田鋼亮さんは東京定期初登場!ソリストは郷古廉さん(11月)



PHOTO 11 2年ぶりに来日を果たしたピエタリ・インキネンが横浜定期&杉並公会堂シリーズに登場。ソリストは扇谷泰朋。(11月)



PHOTO 12 カーチュン・ウォン首席客演指揮者就任披露演奏会。ソリストはオットヴィアーノ・クリストーフォリ。(12月)



PHOTO 13 横山奏さん、永峰大輔さん、神尾真由子さん、上原彩子さんと共に、一年ごして九州公演を開催することができました。(2月)



PHOTO 14 フアン・メナの来日は叶いませんでしたが、広上淳一フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)就任披露演奏会となりました!(3月)



ご支援

ご支援のお礼

2021年度は、前年度に比べれば演奏会の回数は戻ってきたものの、繰り返される緊急事態宣言やまん延防止等重点措置によりさまざまな制限が続き、財政面への打撃は続きました。しかしながら全国の方々からの温かいご支援、国・自治体・民間団体・企業等からの助成をいただいたおかげで、この危機を乗り越えることができました。心より感謝申し上げます。またパトロネージュをはじめとする個人会員の皆様にも昨年に引き続き大きなお力をいただき、今後の安定した活動の基盤をつくる一歩を踏み出せましたこと、厚く御礼申し上げます。

日本フィルは通常、年間約150回のオーケストラ公演を行っております。さらに50回を超える学校・施設訪問、創作ワークショップ等のエデュケーション・プログラム、全国各地で長年継続する地方公演や杉並区を本拠地としての活動等、様々なコミュニティを活性化させる活動を継続的に展開してまいりました。長引く新型コロナウイルスの影響で本業である演奏事業が安定しない事態が長期化する中で、このような活動を継続、拡大するために、安定的に支援していただく仕組みを構築しなければなりません。法人の協賛をはじめとして、まだまだ力を入れる必要がある項目も多くあります。

より充実した、そして社会の要請におこたえできるオーケストラを目指してまいり所存でございます。あらゆる人々へ、あらゆる世代へ、あらゆる地域へ、「今、何をすべきかオーケストラ」の問いかけのもと、“未来を担う子供たちのため”、“豊かな社会の実現のため”、新しく出現する社会からの要請をしっかりと見据え真摯に取り組んでいくこと、それが日本フィルの使命であり、皆様からのご支援、ご期待に応えることではないかと思っております。引き続き皆様のご支援をお願い申し上げます。

Data 会員等 (2022年3月末現在)

定期会員	
東京定期会員(金・土)	1,520
横浜定期会員	679
法人会員	
協賛企業	23
特別会員	217
九州特別会員	105
個人会員	
パトロネージュ	319
日本フィル協会	917
サポーターズクラブ	671

<個人ご支援>

個人の皆様からは「日本フィル・パトロネージュ(個人寄付会員)」「日本フィルハーモニー協会」「日本フィル・サポーターズクラブ」といった様々な会員制度によるご支援をいただきました。

<企業団体ご支援>

企業法人・団体の皆様からは「特別会員」「九州特別会員」(いずれも寄付会員)をはじめ、継続的なご寄付をいただくと共に、活動全般に対するご寄付も頂きました。また、演奏会等の事業では、東京定期演奏会をはじめとする主催演奏会への協賛(冠協賛、広告協賛)をいただきました。

2021年度ご支援総計 285,707,721円

※パトロネージュ、日本フィル協会維持会員の皆様のご芳名はp24-25に掲載致しました。

2021年度ご支援総計 108,060,000円

※ご寄付を賜りました企業ご芳名はp22-23に掲載致しました。

<補助金・助成金・事業委託>

2020年度も「文化庁文化芸術振興費補助金(文化芸術振興活動活性化事業)」対象団体として採択され、東京定期演奏会、横浜定期演奏会に補助金をいただきました。

文化庁からはすでに採択を受けていた補助金等の柔軟な運用に加え、「ARTS for the future!」の補助を新たに得ました。また2020年度に続き「J-LODlive補助金(経済産業省との連携事業)」、厚生労働省からは「雇用調整助成金」等、東京都からは「アートにエールを(ステージ型)」の各支援を得ました。

民間団体からも内定助成事業の柔軟な運用に加え、日本オーケストラ連盟を通じて三菱UFJフィナンシャルグループからご支援をいただきました。

2021年度 補助・助成ご芳名

- <公的補助>文化庁「ARTS for the future!(コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業)」
独立行政法人日本芸術文化振興会
「文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業(劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業))」
神奈川県・再開発加速化事業補助金
令和3年度日本博イノベーション型プロジェクト 文化庁/独立行政法人日本芸術文化振興会
公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
東京都「アートにエールを(ステージ型)」
経済産業省・文化庁「J-LODlive2」
- <民間助成>公益財団法人朝日新聞文化財団/公益財団法人アフィニス文化財団/公益財団法人花王芸術・科学財団/
公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション/渡辺翁記念文化協会(50音順)
- <事業委託>文化庁「文化芸術による子供の育成事業」/文化庁「戦略的芸術文化創造推進事業」

<音源事業並びに物品販売>

コンサート会場に来られない方々にも演奏を届けるために行っている、CD等の録音物の制作と販売、普及事業では、会場での物品販売コーナーの設置取りやめが続いており、オンライン・電話受注のみでの販売となったため、今年度も引き続き売上は苦戦しました。

令和2年度文化庁「収益力強化事業」により開始した、過去の音源を中心としたインターネットを通しての配信事業は、約80曲を配信開始、配信による新たな収益の可能性を拓きました。

● 2021年度の制作アイテム

演奏会のライブ録音CD(JPO RECORDINGSレーベル、日本フィルレーベル)計4点、協会CD(非売品)1点、オリジナルTシャツ、オリジナルカレンダー。配信74タイトル(74曲)。

2021年度グッズ・CD販売収入 9,745,229円

ご寄付いただいた企業のみなさま

〔東京特別会員、九州特別会員(一部個人含む)、活動へのご寄付他〕

(50音順・敬称略)

株式会社IDホールディングス
株式会社アイレ
アイング株式会社
赤坂維新號
あすか製薬株式会社
株式会社アトックス
株式会社アドービジネスコンサルタント
株式会社鮎川電工
株式会社有明新報社
株式会社アール&キャリア
安心な健やか地域づくりをすすめる会
イーソリューションズ株式会社
株式会社泉商会
株式会社泉放送制作
有限会社和泉屋
磯野不動産株式会社
稲員興産株式会社
稲畑産業株式会社
井上歯科医院
今給黎尚典
株式会社インフォーマート
株式会社内田洋行
内野株式会社
宇部エクシモ株式会社
株式会社AIT
株式会社エイブル&パートナーズ
医療法人江上耳鼻咽喉科医院
有限会社江口栄商店
株式会社エヌエフホールディングス
NGB株式会社
エヌビーエス株式会社
株式会社エムジーケイ
株式会社エルイーテック
税理士法人エルピーエー
エレコム株式会社
医療法人社団桜珠会可也病院
株式会社大分銀行
大分県医療生活協同組合
大口酒造株式会社
大隅ミート産業株式会社
株式会社大場造園
株式会社岡三証券グループ
小川香料株式会社
小野塾
公益財団法人オリックス宮内財団
花王株式会社
株式会社カカココム
公益社団法人鹿児島共済会南風病院
株式会社鹿児島銀行
鹿島建設株式会社
鹿島建物総合管理株式会社

鹿島道路株式会社
株式会社カナック企画
株式会社ガモウ
社会医療法人河北医療財団
川北電気工業株式会社
川谷医院
看公税理士法人
医療法人起生会林内科胃腸科病院
北野建設株式会社
キッコーマン株式会社
キャノン株式会社
キュービー株式会社
医療法人共生会びろうの樹脳神経外科
株式会社共同
株式会社協和日成
キリンホールディングス株式会社
税理士法人近代経営
株式会社きんでん
学校法人熊本壺溪塾学園
株式会社熊本日日新聞社
株式会社熊本放送
医療法人九曜会こが内科こどもクリニック
株式会社九曜社
グリーン・サポート・システムズ株式会社
久留米第一法律事務所
グローブシップ株式会社
株式会社京王設備サービス
京王電鉄株式会社
京浜急行電鉄株式会社
医療法人敬和会大分岡病院
株式会社小泉
晃榮住宅株式会社
医療法人弘恵会ヨコクラ病院
株式会社興建社
コーザイ株式会社
株式会社講談社
生活協同組合コープかごしま
生活協同組合コープみやざき
小島新太郎商店
医療法人五秀会末永産婦人科麻酔科
医療法人こだま小児科
株式会社コバヤシ
コンパッソ税理士法人
株式会社コトブキ
株式会社コンサートサービス
株式会社佐賀銀行
薩摩酒造株式会社
佐藤製薬株式会社
三機工業株式会社
山九株式会社
サントリーホールディングス株式会社

三洋貿易株式会社
医療法人CLSすがはら
ジーエルサイエンス株式会社
ジェネロ株式会社
株式会社慈恵実業
宍倉渉税理士事務所
自然庵
澁谷工業株式会社
株式会社じほう
清水建設株式会社
シャボン玉石けん株式会社
株式会社集英社
医療法人秀康会 ましきクリニック耳鼻咽喉科
社会医療法人寿量会
医療法人春回会井上病院
浄土真宗本願寺派無量山西導寺
昭和電工ガスプロダクツ株式会社
昭和電工株式会社
ショーボンドホールディングス株式会社
医療法人社団仁愛会中村医院
真宗大谷派妙行寺
株式会社進藤木材店
新菱冷熱工業株式会社
株式会社ジャックス
株式会社ジンテック
医療法人信和会
株式会社杉江商店
杉山商事株式会社
住友ベークライト株式会社
株式会社スプリックス
聖マリア病院臨床研究教育学部
医療法人誠和会河野産婦人科医院
株式会社セフティハウス
全国保証株式会社
税理士法人創研
株式会社総本家黒田家
第一倉庫株式会社
株式会社泰秀
大正製薬株式会社
大成建設株式会社
大同生命保険株式会社
大日本除虫菊株式会社
大日本塗料株式会社
大日本塗料株式会社福岡営業所
大隆工業株式会社
大和製罐株式会社
高砂熱学工業株式会社
有限会社但馬屋老舗
立花税務会計事務所
千歳コーポレーション株式会社
千代田化工建設株式会社

株式会社千代田テクノル
塚本總業株式会社
株式会社鶴屋百貨店
ディアンドデパートメント株式会社
株式会社ティーガイア
学校法人帝京大学
THK株式会社
TIS株式会社
手島薬品株式会社
株式会社テレビ熊本
株式会社電通
東亜建設工業株式会社
株式会社東急コミュニティー
東京海上日動火災保険株式会社
株式会社東京交通会館
東京都杉並区
東京美装興業株式会社
医療法人藤溪会藤野医院
医療法人唐虹会虹と海のホスピタル
東洋熱工業株式会社
株式会社戸高コーポレーション
戸田建設株式会社
トヨタカラー鹿児島株式会社
トヨタ自動車株式会社
株式会社トヨタレンタリース鹿児島
株式会社永田音響設計
株式会社永谷園ホールディングス
医療法人なごみ会酒井医院
株式会社ナミキ
南洲税理士法人
日総工産株式会社
日鉄興和不動産株式会社
株式会社ニフコ
日本精工株式会社
日本製鉄株式会社
日本電子株式会社
日本パーカライジング株式会社
株式会社日本マイクロニクス
株式会社ネイチャーズウェイ
根本特殊化学株式会社
野村ホールディングス株式会社
パイオニア株式会社
ハウス食品グループ本社株式会社
株式会社白雲社
株式会社博報堂
はざま神経内科・内科医院
ハナマルキ株式会社
公益財団法人パブリックリソース財団
azbilみつばち倶楽部
パンパシフィック・カップパー株式会社
阪和興業株式会社
東日本住宅株式会社
東義秀
株式会社肥後銀行
非破壊検査株式会社
ひびき・パース・アドバイザーズ
税理士法人ひまわりFC

ひまわり音楽ホール
平田宗興
医療法人深川皮膚科
公益社団法人福岡医療団
社団福祉法人福岡コロニー
株式会社福岡ハイヤーサービス
富国生命保険相互会社
富士急行株式会社
富士テレコム株式会社
富士テレコム株式会社
一般財団法人 藤本育英財団
古河産業株式会社
古川康
フンドーキン醤油株式会社
株式会社別大興産
合同会社ベルファーマシー
株式会社ポーラ・オルビスホールディングス
保険ネットワーク有限会社
ホッカンホールディングス株式会社
株式会社ポニーキャニオン
ホンダカーズ佐賀株式会社
本田技研工業株式会社
本坊松栄株式会社
前田憲徳
株式会社牧野フライス製作所
税理士法人松本会計
マネックスグループ株式会社
株式会社丸井グループ
株式会社丸の内よろず
丸美屋食品工業株式会社
三井情報株式会社
株式会社三井住友銀行
三井製糖株式会社
三井石油開発株式会社
三井倉庫ホールディングス株式会社
三井物産株式会社
三井不動産株式会社
株式会社三越伊勢丹アイムファシリティーズ
株式会社三越伊勢丹ホールディングス
三菱HCキャピタル株式会社
三菱オートリース株式会社
三菱ガス化学株式会社
三菱地所株式会社
三菱自動車工業株式会社
三菱重工業株式会社
三菱倉庫株式会社
株式会社三菱UFJ銀行
三菱UFJ証券ホールディングス株式会社
株式会社南日本放送
株式会社ミヤデン
医療法人産科・婦人科宮原クリニック
医療法人涸江堂油山病院
武蔵商事株式会社
明治安田生命保険相互会社
社会福祉法人明澈会
医療法人明徳会佐藤第一病院
株式会社明和住販流通センター
メッドサポートシステムズ株式会社

株式会社メディアグラフィックス
株式会社メルコホールディングス
森社会保険労務士事務所
株式会社ヤクルト本社
八代綜合法律事務所
山崎製パン株式会社
ヤマトホールディングス株式会社
UBE株式会社
ユウキフーズシステム株式会社
医療法人友和会
株式会社夢織
横河電機株式会社
医療法人よつば会今村小児科アレルギー科
米持建設株式会社
株式会社リガク
株式会社リョーサン
株式会社Rings
株式会社リンレイ
株式会社LABCO
株式会社LEOC
社会福祉法人麗風会
税理士法人れいめい
ローム株式会社
社会福祉法人若楠
渡辺医院

他 匿名

パトローネージュ [個人寄付] 会員ご芳名

(2022年7月1日現在・50音順・敬称略)

会田 雅美 東京都	遠藤 滋 神奈川県	菅野 治幸 神奈川県	生島 貴司 千葉県	寺澤 佳代 東京都
浅野 純次 埼玉県	大石 直輝 山梨県	菊池 和美 東京都	新庄真帆子 大阪府	東京フロイデ合唱団
朝吹 英和 東京都	大熊美結紀 東京都	喜多 岳久江 東京都	晋友会合唱団 東京都	
厚田 理郎 東京都	大倉 祐子 東京都	北村 篤嗣 埼玉県	菅 千太郎 東京都	時枝 直満 東京都
阿部 俊彰 神奈川県	大島 剛 埼玉県	北村 裕 神奈川県	杉山 秀子 東京都	徳田 俊一 東京都
荒井 昇 東京都	大竹 広明 神奈川県	木藤 正義 埼玉県	杉山 浩明 東京都	徳田 陽一 東京都
荒木 秀隆 東京都	太田 五郎 神奈川県	木村 恵司 神奈川県	鈴木 昌子 神奈川県	外山 雄三 東京都
荒蒔康一郎 東京都	太田 達男 千葉県	草刈 隆郎 東京都	鈴木 庸夫 東京都	中尾 誠利 神奈川県
有江 純子 神奈川県	大塚 宣夫 東京都	久野 哲男 千葉県	鈴木 祐二 東京都	ナガオカケンメイ 東京都
有手 千麻 埼玉県	大藤 裕康 埼玉県	熊谷 朝子 東京都	住野 公一 東京都	中島 奈穂 東京都
飯田 桂子 東京都	大森 京太 東京都	倉谷 宏樹 東京都	関 兼英 東京都	中島美知子 東京都
飯田 恵司 東京都	岡本 晋 東京都	栗原真知子 埼玉県	妹尾 絲子 東京都	長瀬 雅則 東京都
飯田 憲 東京都	岡田 尚子 埼玉県	黒田 真一 東京都	仙石 通泰 東京都	中園 和博 東京都
家近 茂 東京都	岡田 雅史 神奈川県	畔柳 信雄 東京都	宗 神子 大分県	仲田 喜義 東京都
家近 信子 東京都	奥林 群司 東京都	甲賀 一宏 埼玉県	染野 郁郎 東京都	中西 泉 東京都
五十嵐重雄 東京都	奥山 敦子 東京都	好士崎稔子 東京都	高井 延幸 神奈川県	永野 明宏 千葉県
池浦 慧 東京都	尾澤 弘久 神奈川県	胡口 靖夫 東京都	高木 宏忠 東京都	永野 琢夫 東京都
池田 博 東京都	尾上 洋子 東京都	児玉 敏宏 東京都	高須 幸雄 東京都	中村 公一 東京都
池野 隆光 東京都	小野寺けい子 岩手県	児玉 玲子 東京都	高田 信子 東京都	中村 禎良 東京都
池谷 光司 東京都	小野寺健一 岩手県	小林 こそえ 東京都	高橋 信喜 東京都	中本 逸郎 東京都
伊佐山建志 東京都	小幡 尚孝 東京都	小林 裕美 東京都	武岡 哲郎 東京都	那須 雄治 東京都
石井 榮 東京都	小原 道生 東京都	小林 容子 東京都	竹下 道夫 東京都	棗 年紀・綾 東京都
石澤 卓志 千葉県	折田 正樹 東京都	駒見 俊彦 東京都	竹中 富知男 東京都	新倉 啓介 東京都
石塚 邦雄 東京都	風間 沙織 神奈川県	五味 康昌 神奈川県	龍川 優 東京都	西澤 豊 東京都
石橋 秀雄 神奈川県	賀澤 裕三 福島県	酒井 重人 東京都	立山 裕子 熊本県	西村 敬子 京都府
石橋 雄三 神奈川県	鹿島 英裕 東京都	酒井 和夫 神奈川県	田中 稀一郎 東京都	西村 醇子 神奈川県
伊藤 貴博 東京都	片貝 英重 東京都	酒井 伸 長野県	田中 宏征 兵庫県	日本フィルハーモニー
伊東 宏恭 神奈川県	片柳 彰 東京都	酒巻 英俊 東京都	田仲 博幸 東京都	協会所沢支部
伊藤 昌司 東京都	片山 英二 東京都	定形 哲 神奈川県	田中 将介 神奈川県	
稲葉 治樹 茨城県	桂 史子 東京都	佐藤 武男 東京都	田辺三基男 東京都	二村 英之 東京都
稲葉 好正 東京都	加藤 壹康 静岡県	佐藤 寛之 東京都	谷 聖美 神奈川県	沼口 元彦 東京都
犬塚 静衛 東京都	加藤 丈夫 東京都	佐藤 正昭 東京都	田村 一 山梨県	根本 直之 千葉県
井上 俊信 埼玉県	加藤ひろみ 東京都	座間 淑美 神奈川県	田村 浩章 東京都	野谷 文昭 東京都
井上 直人 東京都	加藤 洋一 東京都	澤田 初恵 東京都	塚本 和久 東京都	箱崎 一彦 千葉県
井上 浩良 東京都	加藤 頼宣 東京都	柴田 栄一 東京都	塚本 美幸 東京都	橋倉 宏行 埼玉県
岩瀬 順子 神奈川県	金子 修 埼玉県	島田 精一 東京都	辻 雅夫 東京都	蓮見 正純 東京都
岩田 達明 静岡県	金子 肇 千葉県	島田 敏生 神奈川県	蔦井 厚伸 東京都	羽田 洋子 神奈川県
上野悦子・陽子 東京都	上條 貞夫 東京都	島田 晴雄 東京都	津田 義久 東京都	濱田 尚人 東京都
宇賀神裕子 神奈川県	上條 淑子 東京都	清水 久子 東京都	常石 博之 東京都	林 一郎 東京都
白井 潤 東京都	川合 孝一 千葉県	清水 幸雄 千葉県	角田 峻一 東京都	原 宏輔 東京都
内村 恒彦 神奈川県	川瀬 範子 東京都	下河辺美知子 東京都	坪井 和音 東京都	原 俊 千葉県
江口 和廣 東京都	川畑 雅義 東京都	下條 英敏 神奈川県	積田 孝一 東京都	針谷 博史 東京都
江口 麗子 東京都	河田 義宏 東京都	下田 英一 東京都	d日本フィルの会	平井 邦子 神奈川県

平井 嘉朗 東京都	本田 博 熊本県	村上 純子 埼玉県	山口 仁栄 東京都	吉村 匡則 東京都
平田 邦夫 神奈川県	前田 耿史 神奈川県	村上 洋美 東京都	山口 達之 長崎県	渡辺 敦郎 東京都
平田 正 神奈川県	前田圭一郎 千葉県	村上 泰郎 東京都	山口みどり 東京都	渡辺 和子 東京都
平林 直哉 東京都	牧野 澄夫 東京都	持田 泰 東京都	山越 章弘 長野県	渡邊規久雄 東京都
平松 恒治 東京都	正木 信汎 東京都	元永 徹司 神奈川県	山下 芳広 北海道	渡邊 直 東京都
広瀬 勝貞 大分県	増田 文彦 神奈川県	森 稔樹 神奈川県	山田 敏之 神奈川県	渡邊 裕志 山口県
広瀬 晴子 神奈川県	松尾 東京都	森 宏之 神奈川県	山田 宏己 東京都	渡辺 康匡 東京都
深沢 茂実 神奈川県	松田 孝裕 埼玉県	森川 智之 神奈川県	山村 隆 東京都	F.H.
福井 英次 東京都	松田 譲 東京都	八木 一郎 山梨県	山村 美絵 東京都	M.K.
福田 昭夫 東京都	松本 信義 東京都	矢口 敏和 千葉県	山本 高稔 東京都	匿名73名
藤井 裕一 東京都	三木恵美子 神奈川県	矢倉 俊紀 東京都	油井 直次 東京都	
藤沢 薫 東京都	三木 繁光 東京都	八代 元行 東京都	横川 直 東京都	
藤本由紀子 東京都	峯島 茂之 東京都	柳田 淑 神奈川県	吉川 美保 東京都	
藤原 真也 東京都	宮川 輝男 千葉県	谷野 剛 東京都	吉川 隆一 東京都	
古瀬 明弘 東京都	宮本 裕二 兵庫県	山上 典彦 東京都	吉谷恵美子 神奈川県	
星 桂太朗 東京都	武藤 雄二 埼玉県	山口 幸子 東京都	吉村 真幸 埼玉県	

日本フィルハーモニー協会 維持会員ご芳名

(2022年4月1日現在・50音順・敬称略)

青木 孝	加藤 明	佐藤 雅道	多田 栄一	広田 孝志	柳瀬 友則
青木 隆	金本 順子	佐藤 安雄	田中 諄	深沢 茂実	山縣 博
赤星 弥生	神谷 薫	澤口佳乃子	坪井 憲治	藤井 行雄	山下 芳広
荒井 隆志	萱場 基	下山 泰彦	東保裕の介	藤川 寿彦	渡辺 勝次
有田 正治	岸田 正博	菅原 章文	富澤 裕	藤村 文二	渡辺 政則
石田 尚身	北宮千恵子	鈴木 重澄	富田 節子	古川 武志	
石田 英雄	木村 繁	鈴木 重行	永井 福枝	古瀬 明弘	
伊藤 正明	倉田 茂	鈴木 富美	長沢 光子	本堂 毅	
岩崎 貞明	蔵貫 義朗	住江 慶子	永田 康	前島 景子	
海野 尚久	小島 鈴枝	隅田 真	中山 泰子	増田 文彦	
大塚 宏二	斎木 典子	高田 昌樹	野田 孝	松井 務	
岡登 弘志	坂本 博志	高津 正徳	野中 和行	皆川 文弘	
小田倉 正	相良 幸男	武井 新	羽生 賢次	三好 敦生	
柏崎 和枝	佐々木忠義	武田 幸子	早川征一郎	民放労連関東地方連合会	

楽団紹介

◆ 創立指揮者	渡邊 暁雄	◆ 首席指揮者	ピエタリ・インキネン
◆ 桂冠名誉指揮者	小林 研一郎	◆ 桂冠指揮者 兼 芸術顧問	アレクサンドル・ラザレフ
◆ 名誉指揮者	ルカーチ・エルヴィン	◆ フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)	広上 淳一
◆ 名誉指揮者	ジェームズ・ロッホラン	◆ 正指揮者	山田 和樹
◆ 客員首席指揮者	ネーメ・ヤルヴィ	◆ 首席客演指揮者	カーチュン・ウォン

ソロ・コンサート マスター

木野 雅之



©森村直人
Masayuki Kinno

ソロ・コンサート マスター

扇谷 泰朋



Yasuhiko Aoi

コンサート マスター

田野倉 雅秋



Masaharu Tanokura

アシスタント・コンサートマスター

千葉 清加



Chiba Kiyoka

第1ヴァイオリン

太田 麻衣



Mami Ota

第1ヴァイオリン

九鬼 明子



Aki Kikuchi

第1ヴァイオリン

齋藤 政和



Masahiro Saito

第1ヴァイオリン

榊 渚



Nagisa Sakaki

第1ヴァイオリン

竹歳 夏鈴



Natsuko Takekida

第1ヴァイオリン

谷崎 大起



Taiki Taniyama

第1ヴァイオリン

田村 昭博



Akira Tamamura

第1ヴァイオリン

中谷 郁子



Ikuko Nakatani

第1ヴァイオリン

西村 優子



Yoko Nishimura

第1ヴァイオリン

平井 幸子



Sachiko Hirai

第1ヴァイオリン

本田 純一



Junichi Honda

第1ヴァイオリン

町田 匡



Takanori Machida

第2ヴァイオリン

遠藤 直子



Naoko Endo

第2ヴァイオリン

大貫 聖子



Seiko Oikawa

第2ヴァイオリン

岡田 紗弓



Sayumi Okada

第2ヴァイオリン

加藤 祐一



Yuichi Katoh

第2ヴァイオリン

神尾 あずさ



Azusa Kamino

第2ヴァイオリン

川口 貴



Takashi Kawasaki

第2ヴァイオリン

佐藤 駿一郎



Shun-ichiro Sato

第2ヴァイオリン

末廣 紗弓



Sayumi Suwayama

第2ヴァイオリン

豊田 早織



Violin
豊田 早織

第2ヴァイオリン

山田 千秋



Chitose Yamada

客演首席 ヴィオラ

安達 真理



Makiko Ando

ヴィオラ

小俣 由佳



Viola
小俣由佳

ヴィオラ

小中澤 基道



Motoshi Koizumi

ヴィオラ

児仁井 かおり



Kaori Enoi

ヴィオラ

高橋 智史



Tomohisa Takahashi

ヴィオラ

中川 裕美子



Yumiko Nakagawa

ヴィオラ

中溝 とも子



Tomoko Nakano

ヴィオラ

松澤 稚奈



Wakana Matsuura
viola

ソロ・チェロ

菊地 知也



Tomonori Kikuchi

チェロ

石崎 美雨



Mami Ishizaki

チェロ

伊堂寺 聡



Satoshi Itadaira

チェロ

江原 望



Nozomi Egawa

チェロ

大澤 哲弥



Tetsuya Osawa

チェロ

久保 公人



Kimitaka Kubo

チェロ

山田 智樹



Tomoki Yamada

楽団紹介

チェロ 横山 桂  key yokoyama	コントラバス 菅原 光  菅原 光	コントラバス 鈴木 優介  鈴木 優介	コントラバス 高山 智仁  Takashi	コントラバス 成澤 美紀  Miki Narusawa
コントラバス 宮坂 典幸  宮坂 典幸	コントラバス 山口 雅之  Masayuki	フルート 齋藤 光晴  Mitsuharu Saito	フルート 難波 薫  Kaoru Naniwa	フルート 真鍋 恵子  Keiko Manabe
オーボエ 佐竹 真登  佐竹 真登	オーボエ 杉原 由希子  杉原 由希子	オーボエ 松岡 裕雅  松岡 裕雅	クラリネット 伊藤 寛隆  伊藤 寛隆	クラリネット 楠木 慶  楠木 慶
クラリネット 照沼 夢輝  照沼 夢輝	クラリネット 堂面 宏起  堂面 宏起	ファゴット 大内 秀介  Shūshū Ōuchi	ファゴット 鈴木 一志  鈴木 一志	ファゴット 田吉 佑久子  田吉 佑久子
ファゴット 中川 日出鷹  中川 日出鷹	客演首席 ホルン 丸山 勉  丸山 勉	ホルン 伊藤 舜  伊藤 舜	ホルン 宇田 紀夫  宇田 紀夫	ホルン 信末 碩才  信末 碩才

ホルン 原川 翔太郎  原川 翔太郎	ホルン 村中 美菜  村中 美菜	ソロ・トランペット オックビアー・ノクリストーフォリ  オックビアー・ノクリストーフォリ	トランペット 大西 敏幸  大西 敏幸	トランペット 中里 州宏  中里 州宏
トランペット 中務 朋子  中務 朋子	トランペット 星野 究  星野 究	トロンボーン 伊藤 雄太  伊藤 雄太	トロンボーン 伊波 睦  伊波 睦	トロンボーン 岸良 開城  岸良 開城
バス・トロンボーン 中根 幹太  中根 幹太	チューバ 柳生 和大  柳生 和大	ティンパニ エリック・パケラ  エリック・パケラ	パーカッション 大河原 渉  大河原 渉	ハープ 松井 久子  松井 久子

チーフステージマネージャー
阿部 紋子
ステージスタッフ
長橋 健太
森田 大翔

ライブラリアン
鬼頭 さやか
杉本 哲也

理事 長 平井 俊邦
副理事 五味 康昌
常務理事 後藤 朋康
理事 中根 英一
石井 啓一
佐藤 木村 福本

評議員 加藤 青子
加藤 孫子
青安 荒石 稲内 石 福内 大海 梶河 喜木

会長 藤 丈正
副会長 孫 康一
理事 荒 石 稲内 石 福内 大海 梶河 喜木

久保 田 隆
小林 研一
小島 津西
津野 間田
葉村 山口
上 條 眞
名 譽 顧問 熊谷 島田

監事 上 條 眞
名 譽 顧問 熊谷 島田

アドバイザリー・ボード
大島 敏夫
小野 忠茂
後藤 隆男
堀越 文雄
田邊 溝口
堀 眞夫
上 條 眞
名 譽 顧問 熊谷 島田

萩 島 里 帆
賀 美 和
澤 由 紀
須 木 文
小 須 木 文
佐 須 木 文
長 須 木 文
杉 須 木 文
中 須 木 文
谷 須 木 文
村 須 木 文
西 須 木 文
馬 須 木 文

明 樹 裕 子
千 一 行 晶 淳 浩
明 樹 裕 子
千 一 行 晶 淳 浩

剛 史 修 弘
剛 史 修 弘

高 高 高 高
高 高 高 高

木 木 木 木
木 木 木 木

裕 子 司 洋 実 理
裕 子 司 洋 実 理

福 島 本 松 三 松 三 松 三
福 島 本 松 三 松 三 松 三

喜 克 仲 昭 克 仲 昭 克 仲 昭
喜 克 仲 昭 克 仲 昭 克 仲 昭

裕 巳 二 平 郎 平 郎 平 郎
裕 巳 二 平 郎 平 郎 平 郎

(2022年 7月1日現在)

日本フィルの公益活動を応援してください

社会のより一層の発展にとって、文化の成熟は欠くことができません。日本フィルも、その一翼を担う存在として、皆様とともにその社会的役割をさらに充実させてまいりたいと考えております。どうぞ温かいご支援をお願い申し上げます。

■コンサートを聴いて応援する

[東京／横浜定期会員]

月に1度のサントリーホール、神奈川県民ホール・横浜みなとみらいホールで聴く贅沢な時間。S席年間会員(全10回)の場合、1公演あたり4,800円に1回券10回購入と比べると約40%お得です。

東京／横浜定期会員

- 特典① 専用指定席:会場にお客様の専用指定席ができます。
- 特典② 優先確保:次期シーズンのお席を優先的に確保します。
- 特典③ チケット振替可能:東京定期／横浜定期期間でチケットの振替が可能です。ご都合によりご来場できない場合、東京／横浜定期演奏会を同月内の東京／横浜定期演奏会にお振替いただけます。
- 特典④ 優先申込:日本フィル主催公演を一般発売の1週間前からお申込みいただけます。
- 特典⑤ 1割引:日本フィル主催公演を1割引でお求めいただけます。(一部公演を除く)
- 特典⑥ ホテル割引:開演前・終演後はお近くのホテル(東京定期:ANAインターコンチネンタルホテル／横浜定期:横浜ベイホテル東急)にてつろぎの時間をお過ごしください。

[サポーターズクラブ] 年会費 1万円

音楽に関心をもつ皆様に「日本フィルのサポーター」として、日本フィルの活動をご支援いただくシステムです。招待券のプレゼント、日本フィル主催公演チケット優先受付・ご優待(1割引)、会報誌・イベントのご案内などの特典満載。さらにお友達を10人ご紹介いただくと、定期会員券(半季)を進呈いたします。

※クレジットカードで直接申込みいただけます。

<https://www.facebook.com.JPOsupportersClub>

■個人の寄付で応援する

[パトロナージュ(個人寄付会員)]

寄付(1口・年額)…3万円／5万円／12万円／20万円／50万円／100万円

日本フィルの演奏活動、社会貢献活動をさらに充実させるため、パトロナージュ・システムによる個人の皆様のご支援をお願いしております。演奏会のご案内、プログラム誌へのご芳名の掲載などの特典があります。

[日本フィルハーモニー協会]

寄付(1口・年額)…一般会員5千円／維持会員2万円／他

「日本フィル協会」は1973年の創設以来、「市民とともに歩むオーケストラ」日本フィルを物心両面で支え、地域で楽団員と協力して行うコンサート作りなどユニークな活動を行ってきました。会員と日本フィルをつなぐ会報紙『市民と音楽』とおんきごうが隔月でお手元に届くなど特典があります。

[オンライン寄付]

日本フィルの「被災地に音楽を」ほか、多彩な活動を支えていただくために、温かいご支援を心よりお願いいたします。

クレジットカードで簡単に寄付できます。

<https://japanphil.or.jp/support/fundraising>

[遺贈]

遺贈とは遺贈者の「社会に貢献したいという想い」を後世に伝える架け橋として、ご自身が所有されている財産(一部または全部)を遺言書を通じて、法定相続人以外の例えば、公益法人や社会貢献団体に寄付することです。日本フィルでは生前のご寄付のほかに、遺贈を積極的に受け入れています。遺言書の作成、手続きなどは、提携(信託)銀行をご紹介します。日本フィルハーモニー交響楽団総務部へご相談ください。

■クラウドファンディングで応援する

[詳細はこちら](#)



[コンサートの聴き手・支え手を広げるプラットフォーム]

2018年度にスタートした、クラウドファンディングによる資金調達は、これまで、新しいコンサートのありかたを作る「落合陽一×日本フィルプロジェクト」で4回、社会的に困難な子供と家族に日本フィルの演奏をプレゼントする「ひとり親のご家庭に日本フィルの演奏会をプレゼント」2回の資金調達を実施し、多くの皆様のお力添えで2,900万円を超えるご支援をいただきました。

またこれにより、日頃オーケストラのコンサートに来場しない方およそ5,000人に、会場やオンラインで日本フィルの演奏会をお楽しみ頂くことができました。

2022年度も、4月から5月にかけて社会的活動の拡大のためのクラウドファンディングを実施、およそ900万円のご支援を得ました。また、8月25日の公演実施に向けたプロジェクトを実施中です。これからも、日本フィルを支える人の輪を広げる活動として積極的に取り組んでまいります。

■グッズを買って応援する

[詳細はこちら](#)



[Tシャツ／CD／コラボグッズなど]

オリジナルTシャツやCD、そのほかコラボグッズなどを販売しています。

グッズの収益は日本フィルの演奏活動に役立てています。

<https://japanphil.or.jp/goods>

■法人の寄付・協賛で応援する

[詳細はこちら](#)



[法人寄付(特別会員)〈寄付会員〉]

年会費36万円(月3万円)／1口より

演奏活動、教育活動、地域活動への共感、ご理解くださる企業法人の皆様へご支援をお願いしております。多くの幅広い皆様のお力添えにより、事業の一層の充実を図りたいと願っております。定期演奏会のご案内、プログラム誌へのご芳名の掲載などの特典があります。

[協賛]

名曲コンサート、サンデーコンサート、第九演奏会など、各種公演を日本フィルとともに盛り上げませんか。冠協賛公演では、商品の展示も可能です(ホールにより差異あり)。詳細は問い合わせください。

[活動支援寄付]

活動全般・特定の事業に対する寄付で日本フィルをご支援ください。

*法人寄付は損金算入の枠拡大を利用できます。

個人の寄付は税額控除が受けられます！

- 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団への寄付金は、税制上、税額控除の優遇措置が受けられます。
- 東京都・杉並区にお住まいの方は個人住民税の寄付金による控除の対象となります。
- 相続により取得した財産の一部または全額を寄付した場合、寄付した財産に相続税が課税されません。

*詳しくは国税庁のサイトをご覧ください。